

の分裂により棍棒状になったもの(キクザキイチゲ, セツブンソウ, サンリンソウ, イチリンソウ) (3) さらに分裂して球状を呈するもの(フクジュソウ, ヒメイチゲ, スハマソウ) (4) 子葉の原基が分化しハート型になったもの(トウゴクサバノオ, コウヤシロカネソウ, リュウキンカ, *Anemone virginiana* など) (5) 子葉が伸長してターピド型になったもの(バイカモ, オオレイジンソウ, ツルヒキノカサなど) (6) 完熟胚を有するもの(トゲミクツネノボタン, ケミクツネノボタン, ヒエンソウ, クロタネソウなど) など, 種々の段階のものがみられた。

2. 胚乳形成に関しては, (1) 胚嚢の中央に大きな液胞があり周辺部で胚乳の遊離核分裂が進行しているもの(ニリンソウ) (2) 胚嚢の周辺部では胚乳細胞の膜形成がはじまっているが中央部では未だ液胞が残っているもの(イチリンソウ, キクザキイチゲ) (3) 液胞は消失し, 周辺部では膜形成が進んでいるが中央部ではまだ遊離核が残っているもの(サンリンソウ) などがあり, (4) その他のものは少くとも胚乳細胞の膜形成は終了していた。

3. 上記のような成熟種子や閉果中の胚や, 胚乳の発育程度は, 多少の変異はあるが, 大体, 種のレベルでは安定しているようである。属のレベルではいろいろの場合があるが, イチリンソウ属では特に著しい多様性がみられた。

4. 球状胚以前の未分化胚を有するものには, 落葉樹林の下草でよく発達した地下茎をもつ地中植物, 特に夏期には地上部が枯れてしまう早春開花性の植物が多い。それに対して, 1年性, 2年性植物では親の植物体から離れるとき胚はすでに充分分化しているものが多い。またオキナグサのような草原に生えるものは比較的よく発育した胚をもっていることが多い。

裸子植物との比較より, 未分化胚のまま脱落し地中で種子内生長をする植物は原始的な特徴を残していると一般に考えられているが, キンボウゲ科の場合, この特徴は分類群との関係よりもむしろその植物の生活型や生活環境に密接な連りがあるように思われる。

□金平亮三: 南洋群島植物誌, *Flora Micronesia*. 19×26.5 cm, 索引共 505 頁, 図版 211, プレート 21, 1972 年 5 月 20 日, 井上書店発行, 11,000 円, 200 部限定。1933 年 6 月に発行されたものの再版である。ミクロネシアの大部分の樹木が詳細な図で示されている, 金平氏の不朽の名著である。ミクロネシアの樹木図鑑は他に類書がなく, 最近南方の植物に関心が高まりつつある時であるが, 入手困難な本であった。原書にくらべるとプレート写真がおとるのは製版上やむをえないことである。巻末にミクロネシアの全植物のリストがある。40 年も前の出版なので, その後の研究により訂正すべき学名がかなりあるが, 古典としての本書の貴重な価値には変りない。

(山崎 敬)